
俺達

藍弥

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺達

【Nコード】

N5847D

【作者名】

藍弥

【あらすじ】

オリジナルのBLものです。18禁要素は含まないと思うので、通常設定。

感情（前書き）

同性愛が苦手な方は見ない事をオススメします。

感情

… 広人視点…

「好き・スキ… 大好きい」

俺、菊地^{キクチ} 広人^{ヒロト}は親友である、冴木^{サエキ} 直人^{ナオト}に言った… 言って見た。

「あんだよ。」

直人はあつさり返してきた。

… 何だよ、こっちが何だよ…だ。

「んー可愛い親友に好き、って言われたら理性ぶっ飛ぶかなってね。」

直人とは青春真つ盛りな時代… つまり、中学生からの付き合いけど、こいつの青春話を聞いたことがない。

… 俺がいうのもなんだけど… ルックスはかなりいい。
女子も騒いでたしね。

「確かに前が女だったら、モテたかもな」

「はあっ？どーっせ、前と同じように彼女いない歴は22年だよ！」

「失礼だな… 前と一緒にするな。一応告白されたことは10回以上、軽くあるから。」

ムツカアー！人が気にしてることをおー

知ってるんだよ、直人のことは。

本人が知らないようなことまで！

それに…

「お前、前って… 中学ン時から名前と呼ばれたの数回だぜ？名前
で呼んでくれて…」

「広人」

！！真剣な顔でじつと見つめられた。

直人の顔は綺麗に整ってて…男のくせに睫毛が、長い、な…

「はい、これでお前の名前を言ったのは、4回だよな」

ニヤリと笑いながら頭をポンツと叩かれた。

「なっ直人！」

10年で4回しか名前前で呼ばないって…どんなだよ！

「ほら、どーぞおお酒。ストレス発散にグツとね、グツと！」

直人が俺に杯を持たせる。

「そーだな、出会ってから10年記念日だし…酔って今までの直人への鬱憤を言うかな！」

グイツと口に酒を流し込んだ。

ん、ちよつとアルコール…強、い…。

「お、よく飲んだな…酒、苦手なんじゃ無いのか？」

…！！

そつだ。俺は…酒、駄目らつたら…っけ…

そつから先の記憶は無い。

…が、

チュンチュン…

すずめの声で起きた。

んー…頭が痛い。

2日酔いってヤツだよな…

ガバツと勢いよく起きあがった。

「…な！？」

服を着てない、下着は着てるが上に着てない…！

「…ううん？」

直人が目を覚ます。

「あ…お前か、はよ」

…さっさわやかな笑顔で、はよ、と言う直人は…服を着てなかった。
「ごっゴメン！」

「あゝ？」

「俺が酔つて、直人にいつ、いかがわしい事したんだろお！！」

パニック状態になった俺は泣きながら、謝った。

「はあ？…ああ、お前覚えてねえんだな？」

「？うん」

「なら、いい。別にいかがわしい事なあってしてねえよ」

直人は不敵に笑って見せた。

その笑いは、今の俺にはとても恐ろしい…

絶対、俺がなんかしたんだ…！！

「俺っ帰るうつ」

ダダダツと直人の家の玄関まで走る。

「その格好でかあゝ？」

俺はすぐに直人の元へ戻っていった。

…直人視点…

ああああ…

可愛い、可愛すぎる。

男より男前な女が居るように、そこに居る女よりも、コイツ…ひ
つ広人は可愛い。

22のクセ、168cmという小柄な身長。

168cmは俺とコイツが出会った時の、俺の身長だ。

「…」

大きな目に涙を浮かばせながら黙る姿は、コイツにしか似合わない

と思う。

「…」

キュッと結ぶ口は、よりコイツの可愛らしさを増している。

「…」

子供が怒られて居るみたいに、正座をしている。

「…直人」

ふいに名前を呼ばれた。

「なんだ」

「俺…本当に何も、してないんだな？」

はあ…俺の想いが分ってる筈も無い。

知っていたら、引かれるだろう。

「何も、無いって言ってるだろ」

「…でもっ」

「なんだ？何か、あつて欲しかったのかよ」

俺は…何かあつて欲しかったが、言わない。

「っっ！なっ！なわけねえだろ！？」

「だあつたら…何もなかった、でいいだろ」

「じゃあ、何で…」

「あ？」

「パンツだけで寝てたんだよ…」

…そっそれは、

「真っ裸で外に出ようとしたお前を引き止めた後にパンツだけ履かせたからだ。」

「……………」

「……………」

「…………ゴメン……っ」

っ！目から大粒の涙がボロボロと落ちる。

「酔った勢いだな、勢い。」

「んっ？」

チウとコイツの唇が俺の頬に触れる。

「なっ！」

俺の顔が熱く、なった。

「へへっ！知ってるんだぜ、直人…お前が俺を」

好きだっ
て事が…

か？

感情（後書き）

文が下手でごめんなさい……もっと上手くなるよう、頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5847d/>

俺達

2010年10月11日01時53分発行